

令和4年

壱岐市議会定例会9月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）長崎県市長会議の壱岐市開催について	3
（2）壱岐なみらい創りプロジェクトSDGs対話会等について	4
（3）有人国境離島法について	4
（4）逆参勤交代事業について	5
（5）壱岐市御柱祭の開催について	6
（6）全国離島交流中学生野球大会について	7
（7）企業版ふるさと納税について	7
2. 交流人口の拡大	
（1）観光振興について	8
（2）壱岐ウルトラマラソンについて	9
（3）国際交流員の招致と多文化共生の推進について	10
3. 産業の振興	
（1）農業の振興について	10
（2）水産業の振興について	12
（3）港湾・漁港について	12
4. 市民	
（1）マイナンバーカードの普及促進について	13
（2）新型コロナウイルスワクチン接種について	13
（3）壱岐市新型コロナウイルス感染症介護サービス相互支援ネットワークについて	14
（4）壱岐市クリーンセンターの復旧について	15
5. 教育	
（1）中学生の活躍について	16
6. 防災、消防・救急	
（1）防災対策について	17
（2）消防・救急について	18
7. 議案説明	
（1）補正予算について	18
（2）その他の議案について	19
8. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・	19

行政報告

令和4年壱岐市議会定例会9月会議

1. はじめに

本日ここに、令和4年壱岐市議会定例会9月会議にあたり、6月会議以降、本日までの市政の重要事項、及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

始めに、去る7月10日執行の第26回参議院議員通常選挙長崎県選挙区において、前長崎県議会議員の やまもと けいすけ 山本 啓介 氏が見事ご当選されました。

3期12年に亘る県議会議員の経験と、卓越した政治手腕が県民皆様に高く評価されたものであり、心からお祝い申し上げます。本市出身の国会議員の誕生は、1917年から1942年まで8期25年間衆議院議員を務められた まきやま こうぞう 牧山 耕蔵 氏以来、実に80年振りのことであり、故郷を愛する揺るぎない信念のもと、離島振興始めさらなる郷土発展、日本繁栄のため、ご尽力賜りますようお願い申し上げます次第であります。

また、同日執行の長崎県議会議員補欠選挙（壱岐市選挙区）において、前市議会議員の う せ かずひろ 鵜瀬 和博 氏が見事ご当選されました。心からお慶び申し上げますとともに、今後とも本市を始めさらなる県政の発展にご尽力賜りますようお願い申し上げます次第であります。

さて、新型コロナウイルス感染症について、感染の第7波が続く中、帰省や旅行等で人の移動が活発となり、新規感染者数は、8月19日

に全国で26万人を超え過去最多となり、長崎県においても、同日、4,610名と過去最多を更新しました。

本市においては、感染者が初めて確認された令和2年3月14日以降、先月7月末までの約2年4か月間で、1,088名の感染者が確認されましたが、8月に入り感染が急拡大し、わずか1か月で、1,406名の感染者が確認され、これまでの累計は2,577名となり、人口の1割を超えました。

このような状況の中、長崎県では、県民の利便性を高めるため、9月2日から、症状がある方への抗原検査キットの郵送配布を開始し、自己検査の結果、陽性であった場合、ご自身で「陽性者判断センター」に連絡することで、医療機関を受診することなく、速やかな療養が可能となりました。また、医療のひっ迫を回避するため、9月9日以降、「全数把握」が見直される予定であり、発生届の対象を高齢者やコロナ治療薬の投与者等に限定することとされます。

これらの見直しにより、県全体における年代ごとの感染者数の発表はこれまでどおり毎日公表されますが、各市町については、発生届が提出された感染者数の公表に限定されるため、これまでのように市全体の感染者数のお知らせは困難になると思われまます。

本市においては、壱岐振興局及び壱岐保健所と連携を図り、感染動向を把握し、感染者数等の公表に努めてまいりますが、今後は、長崎県の公表に合わせて、市ケーブルテレビ及び市ホームページ等で公表することといたします。市民皆様には、ご理解賜りますとともに、引き続き、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

(1) 長崎県市長会議の壱岐市開催について

平成21年、平成27年に続き、壱岐市開催としては今回で3回目となる、第131回長崎県市長会議が、去る8月19日、壱岐の島ホールで開催されました。

当日は、市議会のため欠席の雲仙市を除く12市の市長が出席し、国・県への提言議案の審議並びに共通する課題等について、議論を深めました。

議案審議の後、環境省による講演及び意見交換が行われ、その後の行政視察では、本市の先進的な取組事例として、「壱岐テレワークセンター」及び民間のテレワーク施設のモデル事例として「^{アシベ}ACB ^{リビング}Living」を紹介いたしました。

壱岐テレワークセンターでは、富士ゼロックス（現：富士フイルムビジネスイノベーション）退社後、本年7月に本市が任用した^{たかした とくひろ}高下 徳広 地域プロジェクトマネージャーから、また、ACB Livingでは、本市の地域活性化企業人として令和2年4月から株式会社リクルートより出向の^{なかむら しゅんすけ}中村 駿介 氏から、本市との連携により進めている取組事例等についてご説明申し上げました。

県内市長からは、大変参考になった、改めて視察に訪れたい等、有難いお言葉をいただき、有意義な意見交換ができたところであります。

今後とも、人口減少問題を始め、各市に共通する課題等について、県市長会及び各市との連携を図り、取り組んでまいります。

（２）壱岐なみらい創りプロジェクトSDGs対話会等について

7月24日、今年度第1回目の壱岐なみらい創りプロジェクト「SDGs対話会」を、壱岐の島ホールで開催し、44名に参加いただきました。壱岐高校ヒューマンハート部探究チームの生徒が、地域の皆様へインタビューして発見した壱岐の魅力やそこから考えた未来へのアイデアについて、また、壱岐商業高校の生徒が、福岡大学商学部 ^{とびた} 飛田ゼミと活動している「起業体験プロジェクト」の活動状況について、それぞれ発表いたしました。対話会では学生と大人が世代を問わず、活発な意見等を交わされ、未来に向けた前向きな対話の場となったところでもあります。

また、8月4日には、千葉大学 ^{くらさか ひでふみ} 倉阪 秀史 教授が開発された地域の未来を予測する「未来カルテ」を活用した「未来ワークショップ in 壱岐」を開催し、市職員と大学生10名の総勢40名で、客観的なデータによる2050年の未来予測をもとに、「今、必要な政策を考える」職員研修を開催し、職員力向上に努めたところでもあります。

今後も、対話会を中心に様々な機会を通して、市民皆様一人ひとりの創りたい壱岐の未来に耳を傾け、アイデアの実現に向けて、積極的に共創の取組を進めてまいります。

（３）有人国境離島法について

去る8月23日、令和4年度「壱岐市国境離島新法協議会総会」及び「壱岐市国境離島新法制定民間会議並びに空港整備促進期成会総会」が開催されました。

有人国境離島法の生みの親である ^{たにがわ やいち} 谷川 弥一 衆議院議員を始め、

やまもと けいすけ 山本 啓介 参議院議員、 たくしま としかず 宅島 寿一 県議会議員、 うせ かずひろ 鵜瀬 和博 県議会議員及び市議会議員の皆様にも来賓としてご臨席いただく中、有人国境離島法の期限延長に向け、市民一体となり全力で取り組んでいくこと、また、空港の整備等について引き続き積極的に要望等を行い、航空路の維持存続及び地域振興のために全力で取り組むことが決議文として採択されました。

平成29年4月1日に施行された有人国境離島法は、令和9年3月31日までの10年間の時限立法となっており、今年度で6年目を迎えております。本法による地域社会維持推進交付金は、この5年間で約21億円となり、本市の積年の懸案でありました航路・航空路運賃の低廉化を始め、輸送コスト支援、雇用機会の拡充、滞在型観光の促進等に活用されており、本市における経済の振興・市民生活に直結した極めて重要な法律であります。

今後も引き続き、官民一体となって、有人国境離島法の延長及び空港の整備の実現のため、最大限の活動を行ってまいります。

(4) 逆参勤交代事業について

本市の政策顧問である ^{まつだ ともお}松田 智生 氏が提唱されている「逆参勤交代構想」は、首都圏などの大都市の企業社員が、期間限定かつ交代制で地方に勤務することで、働き方改革と地方活性化の同時実現を目指すという考え方です。

先般、7月1日から3日までの行程で、東京を始めとした都市部の企業等からの参加者及び関係者15名が来島され、本市において「トライアル逆参勤交代」が実践されました。

参加者の皆様は、本市の市民団体、起業家、壱岐なみらい研究所
研究員等との意見交換を経て、最終日には参加者一人ひとりから
人口減少、空き家対策、観光振興、SDGsの取組、ふるさと納税の
推進など、本市の課題解決に向けたご提案をいただいたところであ
ります。

本事業で来島された皆様を含め、今後も関係人口創出及び企業と
の連携による地方創生の取組を進めてまいります。

（５）壱岐市御柱祭の開催について

去る7月17日、姉妹都市である長野県諏訪市との交流事業の一環
として、実行委員会主催により壱岐市御柱祭が開催されました。同
御柱祭は、寅年と申年に開催されることになっており、旧勝本町に
おいて平成10年開催を始まりとして、合併後の壱岐市において平成
16年、平成22年、平成28年と6年ごとに開催され、今回で第5回
を迎えました。

これまでは、御柱を勝本港において海曳きを行った後、小中学生を
含めた市民皆様による里曳きを城山公園まで実施しておりましたが、
コロナ禍を受け、今回は海曳き及び里曳きを行わず、規模を縮小した
形で開催されました。

式典には、「壱岐市に御柱を贈る会」会長 金子 ゆかり 諏訪市長
を始め22名の諏訪市の皆様にご来島いただき、総勢約150名が
出席される中、厳粛かつ盛大に執り行われました。

今回の御柱祭を機にこれまで築かれてきた諏訪市と壱岐市の友好
の絆がさらに深まったものと考えており、今後の一層の交流に期待

しております。

(6) 全国離島交流中学生野球大会について

3年ぶりの開催となる離島球児の夢舞台「国土交通大臣杯第13回全国離島交流中学生野球大会」通称「離島甲子園」が、去る8月22日から25日まで全国の離島から22チームの参加を得て、新潟県佐渡市で開催されました。

壱岐市選抜チームは、1回戦で地元の佐渡市中学校3年生選抜と対戦し、惜しくも僅差で敗れてしまいましたが、翌日行われた交流戦では薩摩川内市のこしきしま甕島選抜に勝利を収めました。選手皆さんはチームの仲間や全国の離島から参加した選手皆さんとの様々な交流を通して大変貴重な経験をすることができたものと考えており、今後益々の活躍を期待しております。

(7) 企業版ふるさと納税について

企業版ふるさと納税制度は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して、企業が寄附を行った場合に税制上の優遇措置が受けられる制度で、本市においては、第3次壱岐市総合計画に掲げた各種事業が寄附の対象となります。

この度、本市の企業版ふるさと納税として、昨年度に引き続き芦辺町出身のまんだに ただし万谷 正 氏が代表取締役を務めておられる株式会社ファウンテック様から、3年振りの開催となる壱岐ウルトラマラソン2022の大会運営に対し、1,000万円のご寄附をいただきました。

万谷様は、東京壱岐雪州会の前会長として、また現在も名誉会長

として壱岐市発展のためにご尽力賜っているところであり、故郷壱岐に思いを深く寄せられ、これまで多くのご支援、ご協力を賜っております。

今回のご寄附も壱岐市のためにという強い思いの中で賜ったご厚意であり、心から御礼と感謝を申し上げます。

2. 交流人口の拡大

(1) 観光振興について

新型コロナウイルス感染症の発生から3年目を迎え、コロナ禍以降初めてとなる行動制限のないゴールデンウィーク、壱岐サイクルフェスティバル開催など観光需要回復の兆しが見え始め、7、8月期の活況を期待しておりましたが、第7波の感染再拡大を受け、観光刺激策である県民割の対象地域の全国拡大が延期される等、観光需要は昨年よりも回復してはいるものの、依然として厳しい状況にあります。

このような中、スポーツ合宿においては、8月末までに65団体、1,361人の申請があり、既に令和3年度実績の1,266人を超え、大きな経済効果を生み出しております。引き続き島内スポーツ団体等との連携した大会開催及び誘客促進に積極的に取り組んでまいります。

また、本市独自の観光需要喚起対策として実施するプレミアム付き宿泊券発行事業については、新型コロナウイルス感染症の状況や国の全国旅行支援の再開時期等を踏まえ開始時期を検討しておりましたが、閑散期に入る10月以降の観光需要の喚起を図る必要があると判断し、10月1日から実施することといたします。

さらに、9月23日の西九州新幹線の開業に併せ、10月から実施されるJRグループと佐賀・長崎両県の大型観光キャンペーン「佐賀・長崎デスティネーションキャンペーン」や壱岐市観光連盟との連携により効果的な誘客に努め、観光需要の早期回復を目指してまいります。

(2) 壱岐ウルトラマラソンについて

「神々の島 壱岐ウルトラマラソン2022」の申込みは、7月31日に募集を締め切り、北は北海道から南は鹿児島県まで33都道府県から100Km363人、50Km235人、計598人の方からエントリーをいただきました。全国的にスポーツイベントでは、コロナ禍前の大会との比較が70パーセント以下のエントリー状況であると言われていた中において、今回、前回比86パーセントであったことは、これまでの本大会における市民皆様のご協力や温かいご声援等の「おもてなし」による大会運営の成果であると考えております。

今後は、市全体で大会を盛り上げるため、前大会同様、小学生の皆さんには参加選手への手紙と応援のぼりの製作を、中学生・高校生の皆さんには当日の給水所等の運営にご協力をいただき、併せて選手への激励を行っていただくようにしております。

また、既に申し述べました株式会社ファウンテック様を始め多くの企業様からご協賛いただき、様々な面でご支援をいただいております。本大会は、壱岐全島を舞台とした一大イベントであり、感染防止対策を徹底した上で大会成功に向け万全の準備を進めており

ますので、市民皆様を始め関係機関、団体皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

(3) 国際交流員の招致と多文化共生の推進について

現在、訪日外国人の受入れについては、水際規制の緩和等、徐々に誘客への動きも出始めており、来年には本市誘客の玄関口である福岡市において、第19回世界水泳選手権福岡大会が開催されるなど、インバウンド推進の機会と捉えております。本市においても、国際感覚の醸成や異文化の価値観を認め合う開かれた地域社会づくりを推進するため、8月26日から国際交流員として3人目となるアメリカ出身のメアリー・キャサリンさんを配置しております。

今後、海外からの訪問客対応を始め、イベント等での通訳・翻訳、学校及び市民皆様を対象とした異文化理解を目的とする出前講座の実施、外国人観光客の誘客に関する業務など、本市の国際交流及びインバウンド推進に向けた幅広い活動を期待しております。

3. 産業の振興

(1) 農業の振興について

本年は、7月18日及び8月12日に集中豪雨があったものの、それ以外は、まとまった降雨がなく異常な干天が続いていたことから、水不足による農作物への被害拡大を防止するため、干害応急対策の支援を行ったところでありますが、要望の取りまとめを行った結果、既定予算を上回る要望があったため、追加で所要の予算を計上しております。

早期水稲については、水不足による籾数の減少や籾の充実不足による減収及び品質低下が懸念されております。

また、普通期水稲については、一部ウンカ等の病害虫が発生する恐れがありますので、引き続き適切な栽培管理が必要となっております。

葉たばこについては、移植後以降、日照時間に恵まれ、順調に生育が推移したため、昨年度の反収265kgを大きく上回る反収290kgが見込まれております。

肉用牛については、新型コロナウイルス感染拡大や国際情勢の影響を受けて原材料の価格が高騰し、特に肥育農家の経営を圧迫している状況にあります。このような中、8月に開催された子牛市では、前回の平均価格と比較し98.4%、約1万円安の63万2千円となり、下落傾向の中で何とか踏みとどまった状況となっております。

本年、鹿児島県で開催されます第12回全国和牛能力共進会の長崎県代表牛選考会が7月7日に平戸市で開催されました。

種牛の部においては、壱岐地区から第3区（若雌の2）に田河地区の^{たなか みつはる}田中 満治 様の「かの号」が長崎県代表牛として選考されました。

また、8月10日に長崎市で開催された肉牛の部においては、第6区（総合評価群）と第8区（去勢肥育牛）に柳田地区の^{やまもと みつとし}山本 満年 様、第7区（脂肪の質評価群）に 壱岐市農協肥育センター 様の出品牛が選ばれ、長崎県代表肉牛7頭のうち3頭が壱岐地区から選考されております。

選考された出品者の皆様に心からお祝い申し上げますとともに、

10月6日からの鹿児島県での全国和牛能力共進会において、壱岐牛の名声を全国に高める結果となりますよう期待しております。

(2) 水産業の振興について

本年4月から7月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と比較いたしますと、漁獲量は816トンの17.2%減、漁獲高は8億2千8百万円の2.4%増と漁獲量は減少しておりますが、一方で漁獲高は増加しております。これは、ケンサキイカ漁が好調で単価が良かったことが要因であります。他の魚類については、漁獲量も減少し、魚価についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて低迷が続いております。

また、市内5漁協の正組合員数は、令和3年度末で昨年から31人減の772人となっており、漁家及び漁協の経営は大変厳しい状況が続いております。

今後も引き続き、漁業者の皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図りながら、各種施策に積極的に取り組んでまいります。

(3) 港湾・漁港について

芦辺漁港整備については、ターミナルビル一元化に伴う駐車場等の再編整備のための意見聴取並びに整備方針の検討を行うことを目的とした芦辺港ターミナル周辺整備検討委員会を6月28日に設置しました。本委員会は本年11月末まで4回開催する予定であり、委員皆様から様々なご意見・ご提案をお聴きすることにより、より良い整備方針の策定に繋げてまいります。

印通寺港整備については、長崎県において、令和4年度新規事業

として採択され、水深確保のための岸壁改良及び泊地浚渫に係る調査費が予算化されております。

4. 市民

(1) マイナンバーカードの普及促進について

国は、マイナンバーカードについて、令和4年度末までにほぼ全国民に行き渡ることを目指すとともに、消費活性化策の一つとして、マイナンバーカードを活用した、マイナポイント事業による普及促進に取り組んでおりますが、8月7日現在の交付率は、長崎県全体で44.6%、本市は49.2%であります。本市の申請促進策としましては、広報紙、自治公民館への回覧等による広報の強化、写真無料撮影サービス、9月中の毎週木曜日の平日時間外窓口の開設、来年3月まで月2回の休日臨時窓口の開設による交付率の向上等に取り組んでおり、今後は、出張申請等も計画しております。

また、国は、各自治体のマイナンバーカード交付率を普通地方交付税に反映させる考えを示しており、普及率の向上が、本市の財源確保に直接繋がることにもなりますので、市民皆様には、早期の取得にご協力賜りますようお願いいたします。

(2) 新型コロナウイルスワクチン接種について

全国的にオミクロン株の感染が拡大する中、市内でも多くの新型コロナウイルス感染者が確認され、医療のひっ迫や高齢者サービスへの影響が懸念されております。

このような中、国はオミクロン株対応ワクチンによる追加接種を

特例臨時接種として位置付け、開始に向けた準備を早期に進めるよう自治体へ求めています。

本市においても、壱岐医師会と相談の上、ワクチンの供給が確定次第、早期に接種が開始できるよう準備に取り掛かっており、今回、所要の予算を計上しております。

また、対象者については、現時点において、1、2回目である初回接種を完了した全ての方となっておりますが、今後のオミクロン株対応ワクチンの国からの供給状況を勘案しながら、お知らせしていく予定としております。

（３）壱岐市新型コロナウイルス感染症介護サービス相互支援ネットワークについて

市内福祉施設・介護保険事業所等において、新型コロナウイルス感染症が発生した際に、施設等で職員が感染あるいは濃厚接触者となった場合、サービスを継続するための職員が不足することが見込まれます。また、居宅系サービスでは代替サービスの提供を行う事業所の確保が課題となります。

こうした事態に備え、市ではあらかじめ「相互支援」が可能な協力施設等のネットワークを構築し、いざという時に市と市内福祉施設・介護保険事業所等が連携し、職員を応援派遣する取組を本年度から開始しました。感染者発生施設への職員応援派遣のほか在宅で介護していた家族が新型コロナウイルスに感染したことにより、介護者が不在となった場合の在宅高齢者への居宅系サービスの提供にも対応いたします。

これまでに、22の福祉施設及び事業所並びに108名の派遣可能職員のご登録をいただいたところであり、感染状況が見通せない中、福祉・介護サービスを途切れなく提供していくためにも市内事業者皆様と市が一丸となって、地域で支えあうネットワークの体制づくりに努めてまいります。

(4) 壱岐市クリーンセンターの復旧について

6月14日に発生した壱岐市クリーンセンターのマテリアルリサイクル推進施設内の火災について、市民皆様にご心配とご不安をおかけしましたことを改めて、深くお詫び申し上げます。

このことについては、消防署と警察署が合同で火災の原因調査を行いました。原因の特定に至りませんでした。

市としましては、市民皆様に対し、これまで以上に分別を徹底していただくために自治公民館の回覧等で注意喚起を行うとともに、壱岐市クリーンセンター及び壱岐市環境管理組合の職員に対しても、受け入れた爆発性、引火性のある廃棄物の分別徹底、年2回の消防訓練の実施等を指示し、再発防止に向けて全力で取り組んでいるところでもあります。

また、地元の住吉地区振興協議会に対しても火災の経過報告会を開催し、お詫びを申し上げ、経過及び再発防止策をご説明申し上げた上で、火災現場についてもご確認いただき、ご理解いただいたところでもあります。

施設の復旧については、復旧工事に必要な機器の半導体の供給不足が長期化しており、その他の部品の品薄状態についても、明確

な解消見込みが見通せないため、今年度中の納品が難しい状況ではありますが、早期の復旧に向け、今回、所要の予算を計上しております。

5. 教育

(1) 中学生の活躍について

7月23日から26日にかけて、長崎県中学校総合体育大会が開催され、予選を勝ち抜いた本市各中学校のチーム・選手が素晴らしい活躍を見せてくれました。勝本中学校の野球部及びソフトボール部がそれぞれ優勝、相撲で芦辺中学校が準優勝、石田中学校が4位、個人の部では、陸上競技の2年男子100mの部で郷ノ浦中学校の福原 悠吾ふくはら ゆうごさんが優勝、剣道で石田中学校の神田 雄吏こうだ ゆうりさんが第3位という輝かしい成績を残し、九州大会への出場権を獲得いたしました。

8月3日から10日にかけて、九州各県で開催された九州大会では、勝本中学校野球部が第3位となり、野球競技では初となる全国大会への出場権を獲得いたしました。また、勝本中学校のソフトボール部がベスト8、郷ノ浦中学校の福原 悠吾さんが、100m決勝で第8位となるなど長崎県代表としてその力を存分に発揮してくれました。

勝本中学校野球部は、8月18日から22日にかけて、北海道札幌市で開催された全国中学校体育大会に九州ブロック代表として出場し、1回戦で東北ブロック代表の宮城県のチームに3対1で勝利、2回戦の北信越ブロック代表の富山県のチームに延長タイブレークの末、0対1で惜敗しましたが、ベスト16という素晴らしい成績を

収めました。

また、この他にも、8月4日から7日にかけて長崎市で開催された第51回長崎県少年軟式野球選手権大会に出場した郷ノ浦中学校野球部が優勝、6月に大村市で開催された第8回全九州中学生男子ソフトボール大会長崎県予選大会において、クラブチームの壱岐ブレイブスが準優勝し九州大会に出場しております。

この度の中学生の活躍を大変うれしく頼もしく思いますとともに、壱岐市の子どもたちのさらなる活躍を期待しております。

6. 防災、消防・救急

(1) 防災対策について

次に、防災対策についてですが、昨日9月6日午前6時頃、最接近した台風11号は、壱岐空港で午前5時01分に最大風速35m/sを記録しました。市民皆様の安全を確保するため、9月5日午後1時に警戒レベル3「高齢者等避難」を、同日午後7時55分には、警戒レベル4「避難指示」を発令したところであり、17の避難所を開設し、最大で208世帯、338名の方が避難されました。被害の状況については現在調査中ですが、幸いにして人的被害の報告はありません。今後も関係機関と連携を図り、市民皆様の安全・安心を最優先に災害対策に万全を期してまいりますので、市民皆様には、早めの警戒や日頃の備えなど、防災意識の向上にご理解とご協力をお願いいたします。

(2) 消防・救急について

熱中症については、今年に入り、8月末日までに27名の方を救急搬送しております。今後、残暑が厳しくなることも予想されますので、市民皆様には、こまめな水分補給を行っていただき、室内においてはエアコンや扇風機等を有効に使用し、体調管理に十分注意されますようお願いいたします。

また、全国各地において新型コロナウイルス感染症第7波が急速に拡大しており、壱岐島内においても今年に入り、8月末日までに疑似症例を含めて136名の方を救急搬送しております。市民皆様には、引き続き感染予防の徹底をお願いいたしますとともに、119番通報の際には新型コロナウイルスに関する情報を一人ひとりに聴取しておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

7. 議案説明

次に、議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出した令和4年度補正予算の概要は、

一般会計補正額 2億4,224万2千円

各特別会計の補正総額 8,111万1千円

となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正額の合計は、

3億2,335万3千円

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、

237億3,551万6千円

で、特別会計については、85億 492万6千円
となっております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、令和3年度各出資法人の経営状況等に係る報告5件、令和3年度財政健全化判断比率等の報告1件、条例の制定・一部改正に係る案件4件、予算案件7件、令和3年度各会計決算認定8件であります。

何とぞ慎重にご審議をいただき、適正なるご決定を賜りますようお願い申し上げます。

8. おわりに

以上をもちまして、6月会議以降の市政の重要事項、政策等について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でありますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年9月7日

壱岐市長 白川博一